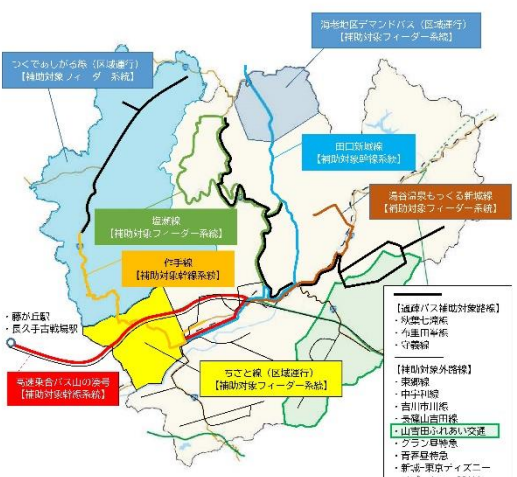
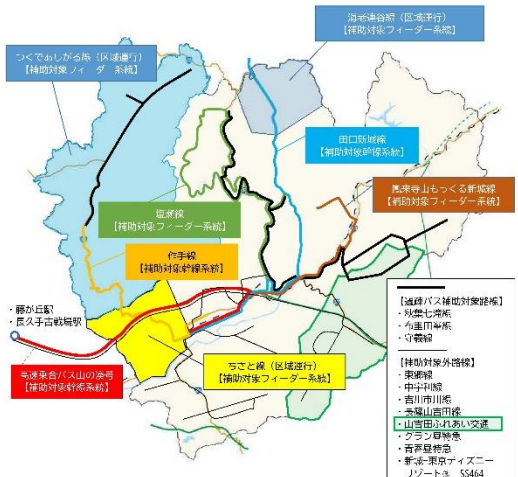


新旧対照表（新城市地域公共交通計画 令和7年6月修正）

旧	新
 新城市 新城市 地域公共 交通計画 2022.4－2029.3 改訂版	 新城市 新城市 地域公共 交通計画 2022.4－2029.3

新旧対照表（新都市地域公共交通計画 令和7年6月修正）

旧	新
5. 補助系統の地域公共交通における位置付け (1) 補助系統の位置づけの状況  26	協議資料1(地域公共交通計画抜粋) 5. 補助系統の地域公共交通における位置付け (1) 補助系統の位置づけの状況  26

新旧対照表（新城市地域公共交通計画 令和7年6月修正）

旧

(2) 各路線の地域公共交通計画における役割

系統名	区分	役割
田口新城線 (新橋病院上平井田口線)	地域間幹線系統	新城市と旧園束町、設楽町を結ぶ重要な生活交通路線であり、移動手段を持たない沿線地域住民の必要不可欠な公共交通手段である。
高連乗合バス山の彦号 (新橋名古屋敷が丘線)		新城市と名古屋敷を結ぶ重要な生活交通路線であり、新城市に住み続けながら通勤・通学、高度な医療を必要とする方の通院を可能とする本路線は、少子高齢化が進む本市にとって必要不可欠な公共交通手段である。
作手線		新城市中心部と旧作手村を結ぶ重要な生活交通路線であり、移動手段を持たない沿線地域住民の必要不可欠な公共交通手段である。
らさと線	地域内フィーダー系統	千歳地域の高齢者の通院や買物、高校生の通学、観光客の交通手段としても必要不可欠な生活交通路線であり、JR飯田線や田口新城線に接続する重要な公共交通手段である。
塩瀬線		園来北西部地域の高齢者の通院や買物、高校生の通学手段として必要不可欠な生活交通路線であり、JR飯田線や田口新城線、北部線に接続する重要な公共交通手段である。
園来寺山もつくる新城線		園来東部地域の高齢者の通院や買物、高校生の通学手段として必要不可欠な生活交通路線であり、JR飯田線や田口新城線に接続する重要な公共交通手段である。
海老連谷線		海老地域の高齢者の通院や買物、中学生、高校生の通学手段として必要不可欠な生活交通路線であり、田口新城線に接続する重要な公共交通手段である。田口新城線の維持確保策として廃止する四谷千枚田新城線の廃止代替路線。
つくであしがる線		作手地域の高齢者の通院や買物、高校生の通学手段として必要不可欠な生活交通路線であり、田口新城線、作手線、豊田市おいでんバス等に接続する重要な公共交通手段である。

27

新

(2) 各路線の地域公共交通計画における役割

系統名	区分	役割
田口新城線 (新橋病院上平井田口線)	地域間幹線系統	新城市と旧園束町、設楽町を結ぶ重要な生活交通路線であり、移動手段を持たない沿線地域住民の必要不可欠な公共交通手段である。
高連乗合バス山の彦号 (新橋名古屋敷が丘線)		新城市と名古屋敷を結ぶ重要な生活交通路線であり、新城市に住み続けながら通勤・通学、高度な医療を必要とする方の通院を可能とする本路線は、少子高齢化が進む本市にとって必要不可欠な公共交通手段である。
作手線		新城市中心部と旧作手村を結ぶ重要な生活交通路線であり、移動手段を持たない沿線地域住民の必要不可欠な公共交通手段である。
らさと線（西部線）	地域内フィーダー系統	千歳地域の高齢者の通院や買物、高校生の通学、観光客の交通手段としても必要不可欠な生活交通路線であり、JR飯田線や田口新城線に接続する重要な公共交通手段である。
塩瀬線		園来北西部地域の高齢者の通院や買物、高校生の通学手段として必要不可欠な生活交通路線であり、JR飯田線や田口新城線、北部線に接続する重要な公共交通手段である。
湯谷温泉もつくる新城線		園来東部地域の高齢者の通院や買物、高校生の通学手段として必要不可欠な生活交通路線であり、JR飯田線や田口新城線に接続する重要な公共交通手段である。
海老地区デマンドバス		海老地域の高齢者の通院や買物、中学生、高校生の通学手段として必要不可欠な生活交通路線であり、田口新城線に接続する重要な公共交通手段である。田口新城線の維持確保策として廃止する四谷千枚田新城線の廃止代替路線。
つくであしがる線		作手地域の高齢者の通院や買物、高校生の通学手段として必要不可欠な生活交通路線であり、田口新城線、作手線、豊田市おいでんバス等に接続する重要な公共交通手段である。

27

新旧対照表（新都市地域公共交通計画 令和7年6月修正）

旧

(3) 地域公共交通確保維持改善事業等支援の必要性

本市の公共交通を確保・維持していくため、関係者の連携のもと本計画に基づく各種施策に対する国・県の支援も活用する必要があります。

特に、下記の路線については、本市や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であるため、「地域公共交通確保維持改善事業」等を活用し、確保・維持に努めます。

系統名	起点	主な経過地	終点	事業許可区分	運行形態	実施主体	補助事業の活用
田口新・高線 (新橋広橋ト平井田口線)	新城宮永	新浦市民病院 新浦有教館 校 本長橋駅前 田口	設楽町役場	①	①	①	①
新浦集合バス山の湯号 (新橋名口線が丘線)	新橋市民病院 西	もつくる新橋 (正重) 藤が丘駅	長久手古野駅				①
ちさと線	丁部地域自治区内、新橋駅前、新橋市民病院						②
作手線	新城宮永	新浦市民病院	作手高里	①	①	①	①
秋葉七滝線	本長橋駅前	阿寺、市久保 細川	本長橋駅前	①	①	①	③
布留田線1	玖老勢	恩原	大崎				③
布留田線2	鳳来総合支所	小島	大崎				③
増瀬線	大崎	只持中、玖老勢	大海駅	②	②	②	②
益瀬線(循環)	大海駅	石江、只持中 盛瀬、玖老勢	大海駅				②
鳳来寺山もつくる新橋線	もつくる新橋 南	井代	鳳来寺山山頂				②
海老津谷線	寒村・比谷・津合井内、静嘉堂医院			②	②	②	②
寺養線	鈴根町前	宮甲	陸沢橋	①	①	①	③
つくであしがら線	作手地内、田部バス停、塩瀬バス停、高井前			②	②	②	②④

事業許可区分	①一般乗合旅客自動車運送	②自家用有償旅客運送
運行形態	①路線定期運行	②区域運行
実施主体	①豊鉄バス	③新城市(運行：西三交通)
補助事業の活用	①路線補助	③道路バス補助

28

新

(3) 地域公共交通確保維持改善事業等支援の必要性

本市の公共交通を確保・維持していくため、関係者の連携のもと本計画に基づく各種施策に対する国・県の支援も活用する必要があります。

特に、下記の路線については、本市や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であるため、「地域公共交通確保維持改善事業」等を活用し、確保・維持に努めます。

系統名	起点	主な経過地	終点	事業許可区分	運行形態	実施主体	補助事業の活用
田口新・高線 (新橋広橋ト平井田口線)	新城宮永	新浦市民病院 新浦有教館 校 本長橋駅前 田口	設楽町役場	①	①	①	①
新浦集合バス山の湯号 (新橋名口線が丘線)	新橋市民病院 西	もつくる新橋 (正重) 藤が丘駅	長久手古野駅				①
ちさと線(西3線)	丁部地域自治区内、新橋駅前、新橋市民病院						②
作手線	新城宮永	新浦市民病院	作手高里	①	①	①	①
秋葉七滝線	本長橋駅前	阿寺、市久保 細川	本長橋駅前	①	①	①	③
布留田線1	玖老勢	恩原	大崎				③
布留田線2	鳳来総合支所	小島	大崎				③
増瀬線	大崎	只持中、玖老勢	大海駅	②	②	②	②
益瀬線(循環)	大海駅	石江、只持中 盛瀬、玖老勢	大海駅				②
鳳来寺山もつくる新橋線	もつくる新橋 南	井代	鳳来寺山山頂				②
海老津谷線	寒村・比谷・津合井内、静嘉堂医院			②	②	②	②
寺養線	鈴根町前	宮甲	陸沢橋	①	①	①	③
つくであしがら線	作手地内、田部バス停、塩瀬バス停、高井前			②	②	②	②④

事業許可区分	①一般乗合旅客自動車運送	②自家用有償旅客運送
運行形態	①路線定期運行	②区域運行
実施主体	①豊鉄バス	③新城市(運行：西三交通)
補助事業の活用	①路線補助	③道路バス補助

28

新旧対照表（新都市地域公共交通計画 令和7年6月修正）

旧

3. 計画の達成状況の評価

本計画の達成状況の評価するため、また、基本方針の実現に向けて取り組む公共交通施策の成果を評価するため、計画最終年度となる令和8年度の目標値を以下のとおり設定しました。
令和6年3月の計画改訂により、計画期間を令和10年度まで延長しましたので、令和7年度の時点で令和8年度目標値を定めた本計画の達成状況を確認し、計画最終年度の目標値を新たに設定します。

目標① 公共交通アクセス徒歩圏人口カバー率の向上		
公共交通にアクセスできる駅・バス停等の徒歩圏域（駅・バス停半径 800m、バス停半径 300m）内人口が、市全体の人口に占める割合を評価します。 新都市地域共創型公共交通システムによる地域の状況に即した公共交通の実現により、公共交通アクセス徒歩圏人口カバー率の向上をめざします。 ★第2次新都市都市計画マスタープラン策定において算出した方法と同じ手法で算出します。		
公共交通アクセス徒歩圏人口カバー率	現状（R2） 65.2%	目標（R8） 81.2%以上

目標② 地域検討組織が主体となったSバス等の見直し事例数の増加		
地域主体の検討により実現したSバス等の見直し事例の数を評価します。 地域でのモビリティ・マネジメントの実施や地域計画との連携を深めていく中で、新都市地域共創型公共交通システムを普及させ、地域検討組織が主体となったSバス等の見直し事例数の増加をめざします。		
地域主体で実現した公共交通の見直し状況	現状（R3） なし	目標（R8） Sバス全路線で実施

目標③ J R飯田線駅利用者数の維持		
J R飯田線駅の利用者数を評価します。 地域公共交通ネットワークの形成を図ることや利用者にとってわかりやすい案内表示、利用促進策の実施などにより、J R飯田線駅利用者数の新型コロナウイルス感染拡大前水準（令和元年度）での維持をめざします。 ★東海旅客鉄道株式会社からデータを取得します。		
J R飯田線駅利用者数	現状（R2） 741,378 人	目標（R8） 942,781 人
※数値は、4月～3月の合計値。		

目標④ 豊鉄バス田口新城線の利用者数の維持		
本市の主要路線である豊鉄バス田口新城線の利用者数を評価します。 地域でのモビリティ・マネジメントの実施や利用促進を図ることにより、豊鉄バス田口新城線利用者数の新型コロナウイルス感染拡大前水準（令和元年度）での維持をめざします。 ★運行事業者からの利用者数の報告を集約します。		
豊鉄バス田口新城線利用者数	現状（R3） 39,618 人	目標（R8） 49,512 人
※数値は、10月～9月の合計値。		

33

新

3. 計画の達成状況の評価

本計画の達成状況の評価するため、また、基本方針の実現に向けて取り組む公共交通施策の成果を評価するため、計画最終年度となる令和8年度の目標値を以下のとおり設定しました。
令和6年3月の計画改訂により、計画期間を令和10年度まで延長しましたので、令和7年度の時点で令和8年度目標値を定めた本計画の達成状況を確認し、計画最終年度の目標値を新たに設定します。

目標① 公共交通アクセス徒歩圏人口カバー率の向上		
公共交通にアクセスできる駅・バス停等の徒歩圏域（駅・バス停半径 800m、バス停半径 300m）内人口が、市全体の人口に占める割合を評価します。 新都市地域共創型公共交通システムによる地域の状況に即した公共交通の実現により、公共交通アクセス徒歩圏人口カバー率の向上をめざします。 ★第2次新都市都市計画マスタープラン策定において算出した方法と同じ手法で算出します。		
公共交通アクセス徒歩圏人口カバー率	現状（R2） 65.2%	目標（R8） 81.2%以上

目標② 地域検討組織が主体となったSバス等の見直し事例数の増加		
地域主体の検討により実現したSバス等の見直し事例の数を評価します。 地域でのモビリティ・マネジメントの実施や地域計画との連携を深めていく中で、新都市地域共創型公共交通システムを普及させ、地域検討組織が主体となったSバス等の見直し事例数の増加をめざします。		
地域主体で実現した公共交通の見直し状況	現状（R3） なし	目標（R8） Sバス全路線で実施

目標③ J R飯田線駅利用者数の維持		
J R飯田線駅の利用者数を評価します。 地域公共交通ネットワークの形成を図ることや利用者にとってわかりやすい案内表示、利用促進策の実施などにより、J R飯田線駅利用者数の新型コロナウイルス感染拡大前水準（令和元年度）での維持をめざします。 ★東海旅客鉄道株式会社からデータを取得します。		
J R飯田線駅利用者数	現状（R2） 741,378 人	目標（R8） 942,781 人
※数値は、4月～3月の合計値。		

目標④ 豊鉄バス田口新城線の利用者数の維持		
本市の主要路線である豊鉄バス田口新城線の利用者数を評価します。 地域でのモビリティ・マネジメントの実施や利用促進を図ることにより、豊鉄バス田口新城線利用者数の新型コロナウイルス感染拡大前水準（令和元年度）での維持をめざします。 ★運行事業者からの利用者数の報告を集約します。 また、令和6年10月より運行開始の湘老連谷線については、地域圏幹線系統である田口新城線に接続する路線のため、田口新城線の利用者増を図るため、実証運行の実施を元に田口新城線のバス停に乗り継ぎ利用をした人数を目標の指標とする。		
豊鉄バス田口新城線利用者数	現状（R3） 39,618 人	目標（R8） 49,512 人
湘老連谷線から田口新城線への乗り継ぎ利用者数	現状（R6） 437 人	現状維持
※数値は、10月～9月の合計値。		

33

新旧対照表（新都市地域公共交通計画 令和7年6月修正）

旧	新																																																
○利便増進事業 基本方針2 大都市圏と地域をつなぐ公共交通をつくる 2-2 公共交通主要拠点の整備 (12) 中心市街地における公共交通主要拠点としてJ R新駅周辺区域を整備します 施策目標 ・新地区の公共交通拠点としての機能強化 【内容】 ・他地区にバス等の設置（新地区・新地区バス等を移設） ・カラー線や看板等を用いた導線づくり（他地区にJ R新駅） ・待合施設の整備を促す（まちのみ情報センターの活用） ・他地区に設置するバス停と新地区、新地区民衆を結ぶ輸送方法の検討 【実施主体】 新都市圏公共交通会議、新都市、交通事業者 目標⑥ J R新駅利用者数の維持 目標⑦ 豊鉄バス田口新地区線利用者数の維持 目標⑧ Sバス利用者数の維持 【評価指標】 J R新駅利用者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>741,378人</td> <td>942,781人</td> </tr> </tbody> </table> 豊鉄バス田口新地区線の利用者数の維持 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39,618人</td> <td>49,512人</td> </tr> </tbody> </table> Sバス利用者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87,158人</td> <td>現状維持</td> </tr> </tbody> </table> 【スケジュール】 ・関係部署との調整を進め、実施目定がつか次第、計画的に順次実施 ○利便増進事業 基本方針2 大都市圏と地域をつなぐ公共交通をつくる 2-2 公共交通主要拠点の整備 (13) 鳳来地区の公共交通主要拠点として本長線バスターミナル周辺区域を整備します 施策目標 ・鳳来地区の公共交通拠点としての機能強化 【内容】 ・カラー線や看板等を用いた導線づくり（J R本長線⇔本長線バスターミナル） ・待合施設の整備 【実施主体】 新都市圏公共交通会議、新都市、交通事業者 目標⑥ J R新駅利用者数の維持 目標⑦ 豊鉄バス田口新地区線利用者数の維持 目標⑧ Sバス利用者数の維持 【評価指標】 J R新駅利用者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>741,378人</td> <td>942,781人</td> </tr> </tbody> </table> 豊鉄バス田口新地区線の利用者数の維持 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39,618人</td> <td>49,512人</td> </tr> </tbody> </table> Sバス利用者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87,158人</td> <td>現状維持</td> </tr> </tbody> </table> 【スケジュール】 ・関係部署との調整を進め、実施目定がつか次第、計画的に順次実施	現状 (R3)	目標 (R8)	741,378人	942,781人	現状 (R3)	目標 (R8)	39,618人	49,512人	現状 (R3)	目標 (R8)	87,158人	現状維持	現状 (R3)	目標 (R8)	741,378人	942,781人	現状 (R3)	目標 (R8)	39,618人	49,512人	現状 (R3)	目標 (R8)	87,158人	現状維持	○利便増進事業 基本方針2 大都市圏と地域をつなぐ公共交通をつくる 2-2 公共交通主要拠点の整備 (12) 中心市街地における公共交通主要拠点としてJ R新駅周辺区域を整備します 施策目標 ・新地区の公共交通拠点としての機能強化 【内容】 ・他地区にバス等の設置（新地区・新地区バス等を移設） ・カラー線や看板等を用いた導線づくり（他地区にJ R新駅） ・待合施設の整備を促す（まちのみ情報センターの活用） ・他地区に設置するバス停と新地区、新地区民衆を結ぶ輸送方法の検討 【実施主体】 新都市圏公共交通会議、新都市、交通事業者 目標⑥ J R新駅利用者数の維持 目標⑦ 豊鉄バス田口新地区線利用者数の維持 目標⑧ Sバス利用者数の維持 【評価指標】 J R新駅利用者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>741,378人</td> <td>942,781人</td> </tr> </tbody> </table> 豊鉄バス田口新地区線の利用者数の維持 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39,618人</td> <td>49,512人</td> </tr> </tbody> </table> Sバス利用者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87,158人</td> <td>現状維持</td> </tr> </tbody> </table> 【スケジュール】 ・関係部署との調整を進め、実施目定がつか次第、計画的に順次実施 ○利便増進事業 基本方針2 大都市圏と地域をつなぐ公共交通をつくる 2-2 公共交通主要拠点の整備 (13) 鳳来地区の公共交通主要拠点として本長線バスターミナル周辺区域を整備します 施策目標 ・鳳来地区の公共交通拠点としての機能強化 【内容】 ・カラー線や看板等を用いた導線づくり（J R本長線⇔本長線バスターミナル） ・待合施設の整備 ・公共交通案内の整備 【実施主体】 新都市圏公共交通会議、新都市、交通事業者 目標⑥ J R新駅利用者数の維持 目標⑦ 豊鉄バス田口新地区線利用者数の維持 目標⑧ Sバス利用者数の維持 【評価指標】 J R新駅利用者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>741,378人</td> <td>942,781人</td> </tr> </tbody> </table> 豊鉄バス田口新地区線の利用者数の維持 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39,618人</td> <td>49,512人</td> </tr> </tbody> </table> Sバス利用者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>現状 (R3)</th> <th>目標 (R8)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87,158人</td> <td>現状維持</td> </tr> </tbody> </table> 【スケジュール】 ・関係部署との調整を進め、実施目定がつか次第、計画的に順次実施	現状 (R3)	目標 (R8)	741,378人	942,781人	現状 (R3)	目標 (R8)	39,618人	49,512人	現状 (R3)	目標 (R8)	87,158人	現状維持	現状 (R3)	目標 (R8)	741,378人	942,781人	現状 (R3)	目標 (R8)	39,618人	49,512人	現状 (R3)	目標 (R8)	87,158人	現状維持
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
741,378人	942,781人																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
39,618人	49,512人																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
87,158人	現状維持																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
741,378人	942,781人																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
39,618人	49,512人																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
87,158人	現状維持																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
741,378人	942,781人																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
39,618人	49,512人																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
87,158人	現状維持																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
741,378人	942,781人																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
39,618人	49,512人																																																
現状 (R3)	目標 (R8)																																																
87,158人	現状維持																																																

新旧対照表（新城市地域公共交通計画 令和7年6月修正）

旧	新
新城市地域公共交通計画改訂版 策定 令和4年3月 改訂 令和6年3月 発行 新城市市民協働部公共交通対策課 〒441-1392 愛知県新城市字東入船115番地 TEL 0536-22-9901 FAX 0536-23-2002 E-mail kotsu@city.shinshiro.lg.jp	新城市地域公共交通計画 策定 令和4年3月 改訂 令和6年3月 修正 令和7年6月 発行 新城市市民協働部公共交通対策課 〒441-1392 愛知県新城市字東入船115番地 TEL 0536-22-9901 FAX 0536-23-2002 E-mail kotsu@city.shinshiro.lg.jp

